すべての瞬間を楽しんで生きることをみんなで支えて叶えたい

横浜こどもホスピスプロジェクト

Vol. 2
Dec 2018

小児緩和ケアを社会に広めていきたい

NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト　代表理事　田川　尚登

いつもご支援ありがとうございます。

命を脅かす病気や重い障がいがある子どもの生活の向上と家族全体の継続的なサポートを重視する小児緩和ケア。小児がん拠点病院では診断時から緩和ケアチームによるケアが始まりますが、まだまだ我が国では、医療現場には浸透していないのが現状です。大人のがん患者に実施している緩和ケアと比較すると、子どもは病態が多彩でニーズが多様である一方で対象者が少ないため小児緩和ケアの専門家が育っていないと言えます。

子どもが重い病気に罹患すると家族は社会から孤立した状態になりがちです。私たちが設立を目指しているこどもホスピスは、まさに社会で緩和ケアを含むサポートを実践していく在宅支援施設です。私たちは今年度より小児緩和ケアの普及のため、こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラムを 2 回行い、市民レベルからの浸透を目指すのと、小児専門病院や小児科でのボランティアの育成に貢献できると考えています。

今秋に小児緩和ケアレベル最高の国のこどもホスピスを見てきました。ドイツ、オランダ、イギリスの 3 ケ国で、ドイツは小児がんなど命の脅かされている子どもたちの支援が医療・介護保険でカバーされていたり、病院から小児緩和ケアチームが在宅支援を積極的に行っていたり、地域のボランティアチームが家族を支えたりする仕組みがありました。オランダも同様に保険による収入が施設運営に取り込まれる仕組みがあり、子どもと家族への支援ができていました。イギリスのマンチェスターのこどもホスピスでは、国からの支援は殆んどありませんがファンドレイズ（資金調達）する部署があり、グッズ販売やイベントを通した寄付、地域の企業や住民からの寄附など地域資源を利用した開かれた施設運営を行っていました。それぞれの違いはあれ、施設に流れる空気は温かく、訪れた家族や子どもがゆったりとくつろぎ、楽しい時間を過ごしていました。我が国の制度からするとイギリスが近いと感じました。施設の設計とともに人材の配置などを決めていく段階で参考にしていきます。

今年度は 2 つの助成金の一部を活用し、小児緩和ケアの普及を目指すイベントを多数開催することができました。遊び方研究会（6 月 16 日、8 月 25 日、10 月 20 日、12 月 8 日）、第 1 回子どものいのちと向き合う講演 & コンサート（11 月 3 日）や小児緩和ケア研修会（11 月 23 日・24 日）は予定を上回る参加で終了しました。また、1 月には 2 回目の講演会、2 月には視察先の 3 か国の代表者を横浜（はまぎんホール）にお呼びして世界こどもホスピスフォーラムを開催します。フォーラムでは世界のこどもホスピスの現状から学ばせていただき、わが国に広げていくにはどうしたらよいかなどを探っていく予定です。お時間がありましたら是非ご参加を！

こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラム
第 1 期生の皆様

ヨーロッパのこども
ホスピス視察報告

地域が支える
ホスピスというあり方

株式会社岡田新一設計事務所　代表取締役　津嶋功

イギリスのこどもホスピス
Francis House

2018年9月26日から10月5日にかけて、ドイツ、オランダ、イギリスのこどもホスピスを視察する機会をいただきました。参加者は、当NPO代表理事の田川さん、飯山さん、一般社団法人北海道こどもホスピスプロジェクト代表理事の佐藤貴虎先生、小児科医の片山愛先生、本物プロジェクト代表の鈴木さん。建設に向けて、具体を前にしての現地運営者やプロジェクトチームとの意見交換はとても刺激的で考えるところの多いものでした。

ホスピスというとターミナルケアの場と考えがちですが、視察先では生きるという活気がスタッフの中にも空間の中にも満ち溢れていました。患者である子どもたちは自宅から出たり入ったりを繰り返します。そこでは子どもたちの持っている感性を刺激し、笑いと笑顔に溢れた生活を目指し、時には家族を静かにそっと見守ります。そんな「家」を強く意識し、スタッフは家族として子ども、親に接することを心掛けています。よってユニフォームは着ません。緩和ケア研修を受けた看護師の他、ホームドクターとのホットラインもしくは来所によるサポートが受けられます。それらのスタッフを支えているのが多くのボランティアです。食事、洗濯、清掃、広報、寄付金集めなど、スタッフの手となり足となり組織を支えています。

住宅地の中にあり、外観も街並みの中、周辺環境の中に「家」として溶け込んでいます。建物の中も普通の住宅、普通の家具の設えで設計されています。ただ電動車椅子、ベッド搬送ができるゆったりした廊下や天井リフトレールの組み込まれた居室と浴室便所などは、スタッフの介助にも配慮した機能性が設えられていました。

国からの補助金、助成金を受けるとその使い道に制限を受けることはどこも同じです。毎年助成が確約されているわけではないので、寄付金集めによる運用資金の調達は重要です。
ドイツでは国の医療保険50%＋寄付金50%で運営、オランダでは国の医療保険と民間の医療保険で運営を賄い、設備投資や備品調達を寄付金100%で運用、イギリスは施設運営を全て寄付金によって賄うということでした。地域の人的支援ともう少し広い範囲（世界中といってもいい）からの資金支援を得て、地域が必要とするホスピス運営を継続している姿を見ることができました。もうひとつ、オランダのホスピスでは印象的な言葉を伺いました。「スタッフに必要なのは資格ではなくパッションだ」と。
私たちも熱いパッションを持って、夢の実現に向けて一歩一歩近づいて参りたいと思います。

ドイツのこどもホスピス：Regenbogenland（左）
オランダのこどもホスピス：Binnenveld（中央・右）

第１回子どものいのちと向き合う講演＆コンサート－神奈川県共催

かながわボランタリー活動推進基金２１協働事業負担金対象事業

小児がんなどで余命を宣告されている子どもとご家族に楽しい時間を提供する、第二の我が家「こどもホスピス」。2018 年 11 月３日、こどもホスピスを広く知っていただくために、横浜のはまぎんホール・ヴィアマーレで講演とコンサートという二部構成のイベントを開催しました。

第１部の講演は、日本に初めて子ども専門の在宅診療所を作り東京や千葉など幅広い地域で訪問診療を展開しているはるたか会の前田浩利先生が、小児緩和ケアについてと命と向き合った子どもたちの思い出や生まれてきた意味などをお話しくださいました。また、講演２は昭和大学病院院内学級で入院している子どもたちと関わっている副島賢和先生が、入院しているこどもからのメッセージや子どもから学ばれたことを熱く語ってくださいました。

そして第２部はピアノ・コンサート。病気や障がいがある子ども達のためのバリアフリーコンサートをライフワークとする斎藤守也氏にピアノを演奏していただきました。斉藤守也さんのエネルギッシュな演奏で会場は手拍子など楽しい時間が流れていました。

当日は多くの方にご来場いただき、これまで「こどもホスピス」という言葉を聞いたことがなかったという方々にも重い病気や障がいと闘うお子さんやご家族の現状を知っていただくことができました。

また、今回は田辺三菱製薬株式会社様から社員の皆様がボランティアとして参加してくださいました。ご協力に感謝申し上げます。

ボランティア活動に参加して

この度は、11 月３日に開催された「子どものいのちと向き合う～講演＆コンサート」でのイベント運営ボランティアを、田辺三菱製薬株式会社にご依頼いただきまして、ありがとうございました。当日は、弊社社員 16 名で、会場案内・受付・会場設営・タイムキーパー・ビデオ撮影・配布パンフレット準備のお手伝いをさせていただきました。弊社では、このようなイベント運営のボランティアは初めてのことでしたので、大変緊張しておりましたが、スタッフの方々の気さくなお人柄と、活動の開始前に「このイベントは子ども達の支援に繋がっていて、皆さんで作り上げるものです。」とのお声かけをいただきましたお陰げで、みんなの士気が上がり、チームワーク良く、楽しく活動ができました。

イベントにも出席させていただき、前田浩利先生、副島賢和先生のお話が大変胸に響き、涙が止まらなくなったり、斎藤守也さんの情熱的なピアノ演奏に魅了されたりと、とても心を揺さぶられる時間でした。

弊社の企業理念は、「医薬品の創製を通じて、世界の人々の健康に貢献します」ですが、今回のボランティア活動に参加させていただき、病気のお子様やそのご家族への支援を行うことも、私たちの大切な使命であると再認識し、いのちと向き合う機会となりました。

お子様やご家族の暮らしは、病気と闘うだけでなく、かけがえのない人生の日々そのものです。精一杯に生きておられるお子様やそのご家族からのメッセージを受け取ることが、命を繋ぐことだと感じております。

実り多い一日を過ごさせていただきましたことに、改めて感謝申し上げますと共に、お子様とご家族に笑顔が届けられますことを願っております。

田辺三菱製薬株式会社 総務部　遠藤郁子

小児がんなどで子どもを亡くした遺族に対する実態調査

かながわボランタリー活動推進基金２１協働事業負担金対象事業

命の脅かされている子どもを支援していく過程で必要となる医療、行政、地域との連携や家族が必要だと感じた内容を掘り起こすアンケート調査を、神奈川県の協働事業として実施することになりました。本年度は神奈川県、次年度以降は全国展開を視野に入れ、横浜市立大学医学部看護学科にご助言をいただきながら進めているところです。

「看護」でこどもホスピスの支えに

横浜市立大学医学部看護学科小児看護学教室

新年をお健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

横浜市立大学医学部看護学科小児看護学教室では、横浜こどもホスピス創設に向けて、調査協力をさせていただいております。この調査は、小児がんなどの病気により天使になられたお子さまのご家族を対象として、病気や治療によって多くの制限を余儀なくされた状況の中で、お子さまとご家族が日々どのように過ごしたいと思っていたのか、また、どのような支援を望まれていたのか、などのニーズを明らかにすることを目的としています。この結果を今後のこどもホスピスに反映させることにより、子どもたちとご家族のニーズに寄り添える「横浜こどもホスピス」になることを願っております。

今回の調査はアンケート形式ですが、お子様とご家族の“心の声”を聞き逃さないよう、横浜こどもホスピスプロジェクトメンバーをはじめ、北海道こどもホスピスプロジェクトの佐藤貴虎代表理事にもご意見をいただき、調査の準備を進めています。また、こどもたちにかかわる全国の看護師とこどもホスピスについて一緒に考える機会をもつことで、大きなムーブメントを起こしたいと思います。

平成 31 年 2 月開催予定の世界こどもホスピスフォーラムでは、ボランティアとして看護学生と共に参加させていただく予定です。学生と共に「看護師としてできることは何か」を考え、横浜こどもホスピスを「看護」の力で支えられるように、精一杯お手伝いをさせていただきます。

最後になりましたが、皆様にとって素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます。

小児在宅移行のための多職種連携勉強会

独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

小児在宅医療の目的は、どんな重い障がいや病気を持った子どもも一人の「人」として大切にされ、家族の絆、地域のつながりの下で、それぞれがもって生まれた「いのち」の可能性をできる限り発揮して、生ききることができる社会を実現することです。しかし実際は、関係者間の情報共有や調整、制度の活用も十分ではなく、在宅移行がご家族にとって重い負担となっているのが現状です。子どもと家族の笑顔を守り支えるために、何をすべきか。医療・福祉・行政・家族・・・垣根を取り払って考える勉強会を開催しました。

第 1 回（9 月 22 日）： 星野　陸夫（神奈川県立こども医療センター地域連携家族支援局新生児科）
片岡　愛（あい診療所院長、小児科医）

第 2 回（10 月 27 日）： 当新　卓也（厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部）
樋口　明子（公益財団法人がんの子どもを守る会、ソーシャルワーカー）

第 3 回（11 月 18 日）： 当新　卓也（厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部）
久保田　一男・鈴美（難病学生患者を支援する会、事務局）

こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラム

独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業

小児緩和ケアとは、身体的な苦痛だけではなく、精神的な不安や社会的な疎外感、きょうだい・両親など家族の苦しみなど、様々な要素を「トータル・ペイン」として捉えてそれらを取り除き、子どものQOLの向上と家族のサポートを目指す取り組みだといえます。日々、いのちと向き合っているお子さんやご家族に寄り添い継続的に支えていける人が多ければ多いほど、お子さんもご家族も安心できる。何かあってもまた前進していける。そんな想いで、医療者だけでなく一般社会にも小児緩和ケアを広めていく研修講座を企画しました。第1回は11月23日と24日に終了し、第2回は2月9日と10日を予定しています。

こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラムに参加して

神奈川県立こども医療センター　松田温子

現在、病棟保育士（HPS（ホスピタルプレイスペシャリスト））として、辛い治療と向き合っている子どもたちと関わっています。そして、病院内でも緩和ケアに対して積極的に支援しています。しかし、その内容は医療・治療を通しての「身体的苦痛」についてのものが多く、直接的な医療を行わない保育士（ＨＰＳ）にとって、精神的・社会的苦痛をどのようにサポートしていけばよいか情報を取りながらもいつも迷いながら支援をしてきました。そうした中、今回この「小児緩和ケア人材育成プログラム」の研修案内を目にし、これだ！とその日に参加の申し込みを行いました。この研修は2日間で、薬を使用する緩和ケアではない角度から7名の講師の方々がそれぞれの立場でお話して下さるというとても内容の濃いものでした。小児緩和ケアの定義から遊びを通して学ぶ成長発達・遊びや教育を通しての日常や心理的サポート、きょうだいへの支援、そして私にはまだまだ分かり得ないグリーフケアについて、それぞれ専門的な立場で実際に経験されたことや事例を通してわかり易く教えて頂きました。それは私自身がこれまで行ってきた遊びを通しての支援を振り返り、また新たに子ども・家族・きょうだいに寄り添い支援できることをじっくり考えられた2日間であり、さあ、明日からどんなことができるだろうか、あんなこともできるかも…と思える2日間でした。そしてまた、色で例えると寒色系と思われがちのこどものホスピスというところが暖色のとてもあたたかい場所であり家族や友達が集う「家」のようなところであり、ご家族にとってのよりどころになるよう私を含めプロジェクトに参加しているいろいろな方々みんなが一緒にサポートしていくところなのだなと実感しました。
また、温かく熱い思いを持った講師の方々や参加された皆さんとの素敵な出会いがあり、これからもそのような同じ思いの方々と一緒に学びながらプロジェクトを応援していきたいと思っています。

小児在宅移行のための多職種連携勉強会に参加して

障害児の母、社会福祉士 帖佐 佐和子

私には障害のある子供がおります。こども病院で産まれてから退院し、一時は医療的ケアも必要としながら、小学1年生の現在に至るまでの間に、様々な職種の本当に多くの方々にお世話になってきました。私自身も福祉の仕事をする中で、その一員として何ができるのか、また、障害児を育てていく中で何かヒントになることがあればと思い、この勉強会に参加させて頂きました。

勉強会では、病気や障害のある子供たちを医療面から支援されている医師の先生方や、福祉制度を通して支援されている行政の方のお話を聞き、立場は違っても、子供たちやその家族を支えたいという思いが伝わってきて、胸が熱くなりました。また、小児がんの子供たちや家族を支援されている方々のお話を聞き、病気や障害があっても大切な子供であること、病気や障害は不便はあっても不幸ではない、との思いを強くしました。

毎回、講演後に参加者の方々とグループに分かれて講演を振り返る時間があり、伺ってみると本当に様々な職種の方々が参加されていて、普段接する機会の少ない職種の方々と率直な意見交換をさせて頂くことができて、色々な気付きを得ることができました。また、立場は違っても、子供の幸せのためという目指すところは同じなのだと感じることができ、とても嬉しく心強く思いました。

子供は病気や障害があっても必ず成長発達する。そのためには医療だけでも教育だけでも福祉だけでもなく、色々な側面から支えていく必要がある。様々な職種がそれぞれの専門性を持ち寄り、子供の幸せのためにつながっていくことが大切だと思いました。そして、今回の勉強会でたくさんの方々との素晴らしい出会いがあったことで、きっとそれはそんなに難しいことではないと思えました。この気付きを普段の仕事や子育ての中で活かしていけたらと思います。貴重な機会を頂き感謝しております。ありがとうございました。

平成 30 年度事業予定

①かながわボランタリー活動推進基金 21 負担金事業

●こどもホスピスと小児緩和ケア講演会

▷「第 2 回子どものいのちと向き合う：講演会」
日時：2019 年 1 月 26 日 (土)
場所：神奈川県民サポートセンター 2 階ホール
講演：池川明 (産婦人科医師）／柳澤隆昭（東京慈恵会医科大学脳神経外科学講座、教授）

●病児と遊びの研究会（5 回シリーズ最終回）

日時：2019 年 1 月 19 日
場所：日本丸訓練センター
講演: 永峰玲子（おおたはらっこ～波の会～、代表）／橋本敦子（スヌーズレン・ラボ、代表）

●小児がん患者の遺族等を対象とした調査

▷通年

②独立行政法人福祉医療機構助成金事業

●こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラム

日時：2019 年 2 月 9 日、10 日（第 2 クール）
場所：日本丸訓練センター
講演：多田羅竜平（大阪市立総合医療センター、緩和医療科部長兼緩和ケアセンター長）／山地理恵（大阪市立総合医療センター小児医療センター、HPS）／佐藤貴虎（旭川大学短期大学部幼児教育学科、教授）／副島賢和（昭和大学大学院保健医療学研究科、准教授）／浅原聡子（グリーフカウンセリング ivy、代表）／清田悠代（NPO 法人しぶたね、理事長）

●第 1 回世界こどもホスピスフォーラム (イギリス・ドイツ・オランダ・日本予定)

日時：2019 年 2 月 11 日
場所：はまぎんホール・ヴィアマーレ

③自主事業

●小児病棟サンタクロース訪問

日時：2018 年 12 月 25 日
場所：横浜市立大学附属病院小児科

病児と遊びの研究会　活動風景

協働部署より

神奈川県健康医療局保健医療部県立病院課 / がん・疾病対策課

神奈川県では、かながわボランタリー活動推進基金 21 を活用し、ボランタリー活動の自主性、主体性を尊重しながら、ボランタリー団体等と県とが協力し、協働して事業を進めていくことや、その活動を促進するための支援を行っています。

NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクトの皆様から提案いただいた横浜こどもホスピス設立運営事業について、今年度から団体と県協働部署が協働して事業に取り組むことになりました。

県協働担当部署では、団体主催のイベント案内を県広報紙「県のたより」に掲載するなど広報への協力や、事業への助言、連絡調整などの支援を行っています。

これまで、団体が主催する講演会や病児と遊びの研究会の一部にも参加させていただきましたが、病児を取り巻く様々な課題があることを改めて実感するとともに、横浜こどもホスピスの目指す姿、小児緩和ケアなどについての理解が深まりました。また、講演会や研究会には、医療関係者に限らず様々な分野の方々がご参加くださり、特に研究会は定員がすぐに満たされるほどの盛況ぶりであり、このように多くの方がこどもホスピスに関心を持ってくださっていることは、今後のこどもホスピス開設・運営にとって、非常に心強く感じます。

今後も協働事業を展開することで、より一層、こどもホスピスに対する県民の皆様の理解が深まり、支援の輪が広がっていくよう、県協働担当部署として、団体との協働事業について引き続き協力してまいります。

いのちの授業

陵光ゼミナール代表　鈴木　嘉記

今年７月、私が代表を務める「陵光ゼミナール」で田川さんによる「いのちの授業」を開催しました。きっかけは、友人の経営するイルム元町スクールで開催された「いのちの授業」に参加したこと。私はこの時、田川さんの話を聞き、「現実に起きている『本物の』社会問題に対し大人が本気で立ち向かい、道を切り開いていく。田川さんのそのような姿を子どもたちに見て欲しい。」と強く思いました。

田川さんの話は、生徒の心を激しく揺さぶりました。これまでの活動や自身の懸ける思い、亡くなったはるかちゃんの生まれてきた意味など、田川さんの話を真剣なまなざしで全員が食い入るように聞き、中には涙する生徒もいました。

しかし、話をきくだけに留まらせてはいけません。聞いた話を、しっかりと学びにつなげるために、田川さんの話を中学校の夏期課題である「人権作文」や「税金作文」の題材として使うことをすすめました。このように、学校から出されている課題と結び付けることで、子どもたちは「こどもホスピス」をとりまく問題をしっかりと調べ、学ぶことができました。

「本物」にふれることで、子どもたちが殻を破り成長する。これが私たちの考え方です。今回の経験が、すぐに何かしらの行動につながるとは限りません。けれども、彼らに蒔かれた種は必ず将来、実るときを迎えるでしょう。

また、関心をもつのは子どもたちだけではありません。多くの保護者の方々から、「横浜こどもホスピスプロジェクト」の活動に興味がある、という声を頂いています。

このように、「横浜こどもホスピスプロジェクト」の一助になるべく、これからも行動していきたいと考えています。

ご寄付一覧

（順不同・敬称略）（2018 年 7 月～ 2018 年 11 月末）

ご支援、ありがとうございました

【会費・寄付によるご支援者】

亀井　洋子 / 辻　政代・百合江 / 松田　温子 / 鈴木　正雄・星子 /JWE ジャパンレスリングエンターテイメント / 河村　ふゆき / 川口　記代美 / 山口　みどり / 齋藤　明順 / 関　秀倫 / 黒田　節代 / 松下　能子 / 安達　かほる / 大家さん向上委員会 / 鳥澤　竹彦 / 小山　桂子 / ひまわり交通 (株) / 井上　純子 / 青柳　充彦 / 手塚　重仁 / 水島　朝子 / 山崎　香織 /(株) 徳建 / 山本　悦子 / 齋藤　あゆみ / 鈴木　英樹 / 吉田　あけみ / （一社）横浜薬剤師会 / 島崎　友樹 / 丸茂　弘子 / 浅岡　浩行 / 松木貴子マリア / チャリティ―オープンマイク宿河原ポトス参加者 / 土岐　和正 / 大久保　照子 / 古平　秀子 / 安保　さよ子 / 廣瀬　幸美 / 安藤　弘子 / 中尾　千代子 / 山室　宗作 / 菱沼久美子 / 浅川　冨美子 / 細谷　和一郎 / 福島　敬子 / 尾田　政彦 / 関口　眞由美 / 田中　寧子 / 木元　茂 / 澤岡　悠紀子 / 木下　和子 / 土谷　勇雄 / 髙橋　清見 / 吉田　賢一・聡 / 山本詩子 / 下出　和治 / 鈴木　利枝 / 瀧口　秀之 / 大嶋　博之 / 武川　幸子 / 芹田　俊雄 / 林　勝 / 大野　乃里子 / 丸山　由珠 / 大澤　國宏 / 今村　恭子 / 氏家　ゆり子 / 稲葉　昌子 / 妹尾　芙美子 /(株) 吉永商店 / 西村　博子 / 斉藤　俊雄 / 行松　泰弘 / 佐野　正子 / 真板　保昌 / 深澤　時江 / 沼田　利夫 / 嶋田　哲也・淑男 / 横山　朋美 / 真野　裕大 / 山田　忍 /(株)NB 建設 / 新楽　和則 / 菅野　孝志 / 久保田　綾 / 藤間　繁 /(株) 安藤建設 / 小林　清 / 小林　和子 / 曽我　宗代 / 鈴木　章 / 甲田　留美 / 草間　雅美 / 陵光ゼミナール /(株) ヒューマンリソースみらい / 斎藤　綾子 / 加藤　茂雄 / 佐藤　庄一郎 /(株) キクシマ / 長南　睦子 / 三晃商事（株）/ 小峰幼稚園 / 芦部 久美子 / 渡辺　真哉 / 日浦　美智江 / 藤田　俊徳 / 青木　礼子 / 柴田　恭子 / 齊藤　剛人 / 木崎　光子 / 小田切　利夫 / 川瀬　舜太郎 / 佐々木　淑子 /(医) スマイルこどもクリニック / 諸角　菊子 / (株) 第一保険センター / 馬上　祐子 / 矢島　美代 / 輿石　且子 / 黒澤　信男 / 山﨑　眞理江 / 田中　治美 / 笹本　和博 / 村山明子 / 篠崎　暁子 / 堂ノ脇　利々 / 千久田　恵 / 椋棒　弘子 / (株) 創友 / 渡辺　幸広 / 伊東　新一 / アミエル税理士法人 / 桜井　和夫 / 後藤　浩之 / 小瀬村　芳明 / 鍋島　絢子 / 黒澤　宗剛 / 小林　和民 / 鈴木　道弘 / 池田　紘一 / 石坂　起久美 / 池田　龍子 / 小濱　智代子 / 佐藤　綾子 / 安野　寛　/ 松村　美千代 / 鶴田　直子 / 横浜高速鉄道 (株) / 熊澤　美香 / 志澤　直樹 / 横田　碩子 / 泉水　恭子 / 櫻井　時子 / 井上　玲子 / 山口玲子 /(福) 湘南病院 / 水口　幸治 / 高市　方子 / 飯山　泰子 /(医) 金沢文庫病院 / 牧野内　篤 / 土岐　正身 /(有) ワキ / 佐々木拓雄 / 河野　鈴児 / 浜村　和子 / 内山　修志 / 加藤　郁代 / 寺﨑　光子 / 横浜南キリスト教会 / 萱畑　佳代子 / 齋藤　博子 / 木下　未果子 / 牧野　常松 / 山下　大輔 / 北井　三哉子 / 古賀直哉 / 沖野　和正 / 星野　千恵子 / 東條　富美子 / 佐藤　みどり / 城　博俊 / 阿部　起佐子 / 津野　晶子 / 石井　由利子 / 重内　博美 / 森田　利恵 / 森崎　芙美 / 柏村　瑞枝 / 飯山　直樹 / 山本　文子 / 阿部　昭子 / 高森　浩信 / 湯浅　陽子 / カトウキミヒコ / 長田　健二 / 松田　幸子 / 宮脇　良子 / 市川　利子 /(特非) 米津塾 / 寺村　昌子 / 矢島　千恵子 / 金沢八景 YMCA 保育園 /(株) アールケイエンタープライズ / 手芸ボランティアみなづき / 亀井　めぐみ / 海野　郁子 / 飯田　朝子 / 阿部　起佐子 / イシバシ　ハナ / ゴトウ　マサキ / 武松　ひで

【よこはま夢ファンド】

（横浜市が掲載を確認された方。2018 年 8 月末まで）

浅岡　浩行 / 岩田　慶隆

【イベント協賛】

株式会社メモワール / 大洋建設株式会社 / 株式会社安藤建設 / アミエル税理士法人 / 株式会社せんざん / 田辺三菱製薬株式会社 / 三晃商事株式会社 / 株式会社かんぽ生命保険 / 株式会社四元工美 / 社会福祉法人湘南福祉協会 / 横浜サルビア法律事務所 / 株式会社ありあけ / ひまわり交通株式会社 / 株式会社横濱屋

【募金箱設置】

ベーカリーハウス　アオキ / スマイルガーデン /Bravissimo / ビィーンズファーム / 壮健堂治療室 / ヘアーサロンタカキ / 山本助産院 / パブ　ドレミ / スマイルガーデン / 花屋こはな / 輿石且子事務所 / スマイル食堂 / 角田宏子事務所 / 八景写真館 / 八木薬局 /BAR　LUZ / ヨコハマホップ / 瀬田クリニック新横浜 / たわわや / 大和・綾瀬理容組合

第 11 回 Tokyo Yamathon の寄付先団体に選出されました！

12 時間以内に JR 山手線の全 29 駅を 3 人または 4 人一組のチームで歩いて制覇するファンドレイジング・チャレンジ、Tokyo YAMATHON。横浜こどもホスピスプロジェクトが 2019 年の寄付先団体に選ばれました。全駅が無理ならハーフ・ヤマソン、ハーフも無理なら応援ボランティアとして、あなたも参加してみませんか？

Joe Pournovin, Founder & CEO of Tokyo Yamathon

Tokyo Yamathon is a charity fundraising challenge in which teams of 3 or 4 people compete to walk around Tokyo' s JR Yamanote Line in under 12 hours. But it is more than that. It is a chance for people of all ages to come together; to participate, to volunteer, but more importantly to unite and raise funds for those who need our help and attention.

We were introduced to 横浜こどもホスピスプロジェクト earlier this year through a friend and supporter of our event and after meeting with the two organisers, our team couldn' t stop thinking about Tagawa-san' s story and vision for this hospice. Soon after, 横浜こどもホスピスプロジェクト entered into a shortlist of 5 NPO' s and after a vote including our board members and corporate sponsors, Tokyo Yamathon 2019 is delighted to announce our partnership with 横浜こどもホスピスプロジェクト . Through our partnership, 100% of team registration fees and all other funds raised will go to support building this hospice.

In our May 2018 event, 1000 participants joined together with 200 volunteers. The next Tokyo Yamathon will be held on Saturday 11th May 2019 and we are hoping to attract even more people in order to raise as much money as possible for this hospice. If you think 40km is too much, why not try our half-Yamathon? And if you think our half-Yamathon is too much, why not volunteer with us? This event simply has something for everyone.

11th May is your day to choose your path and choose your pace, and enjoy what comes your way. 11th May is your day to be a part of something unique, while raising as much money as possible for 横浜こどもホスピスプロジェクト . 11th May is Yamathon day!

世界こどもホスピスフォーラムのご案内

命を脅かす病気の子どもと家族を支える在宅支援施設「こどもホスピス」を我が国に立ち上げ、各地にも広げていくための啓発イベントとして、国内外の実践から学ぶシンポジウムを開催します。海外専門家はイギリス、ドイツ、オランダからの招聘を予定しています。

日時： 平成 31 年 2 月 11 日（月）
10：00 ～ 16：15
会場： はまぎんホール・ヴィアマーレ
(横浜市西区みなとみらい 3-1-1)
主催： NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト

支援のおねがい

【賛助会員 (サポート会員）になって継続的に支援する】
①個人：年間 1 口 5,000 円から（1 口以上）／**②法人・団体**：年間 1 口 10,000 円から（1 口以上）

【寄付で支援する】 自由な金額、自由な回数でご寄付をいただいております。

【振込先】
ゆうちょ銀行振替口座：００２６０－９－１０４５１８
口座名義：トクヒ）ヨコハマコドモホスピスプロジェクト

※ ゆうちょ銀行以外の他の金融機関からの振込の場合は、
【ゆうちょ銀行】店名０２９（ゼロニキュウ）、 預金種目：当座、 口座番号：０１０４５１８
口座名義：トクヒ）ヨコハマコドモホスピスプロジェクト

※ 寄付等で税額控除を希望される方は、横浜市市民活動推進基金「よこはま夢ファンド」制度をご活用ください。お申込み手続きは「よこはま夢ファンド」のウェブサイトでも可能ですが、ご相談いただければ、申し込み用紙を郵送させていただきます。

※ 遺贈の相談も承っております。

会報発行者：特定非営利活動法人横浜こどもホスピスプロジェクト
〒 231 － 0003 神奈川県横浜市中区北仲通 3-33 関内フューチャーセンター 164
TEL：045-274-8686 FAX: 045-550-3459 e-mail: contact@childrenshospice.yokohama http://childrenshospice.yokohama/
編集担当（株）ユック舎